本支店会計

本支店間取引

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　本支店間取引の内容を理解しよう！

②　「本店」勘定と「支店」勘定の役割を理解しよう！

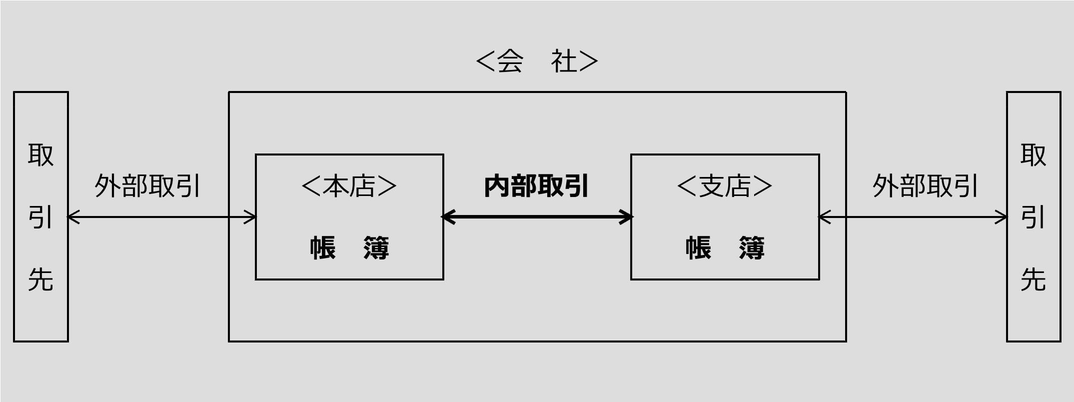
③　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「本店」勘定

「支店」勘定

会社の販売先が拡大すると、本店だけでは対応できなくなり、各地に支店を設けるようになります。そうすると、本店と支店の取引や支店同士の取引が生じますので、これらの取引を処理する会計制度が必要となります。さらには、支店の業績を評価したり、本店と支店を合わせた会社全体の経営成績や財政状態を明らかにする会計制度が必要となります。これらに対応した会計制度が**本支店会計**です。

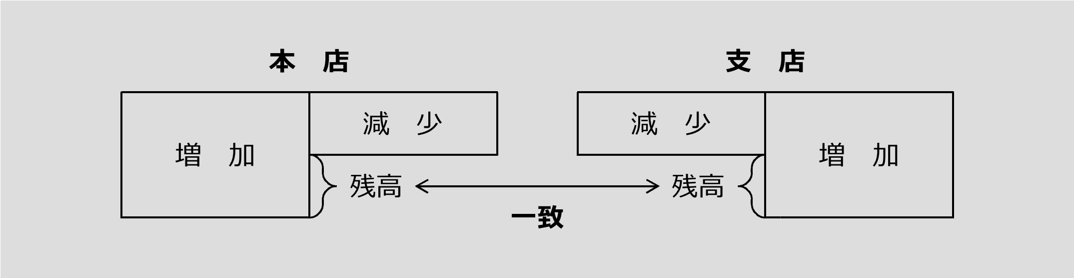


外部取引は今までの簿記と変わりませんので、新しく学習するのは**会社の内部取引**である**本支店間取引**になります。

（１）本店勘定・支店勘定

本支店間取引は会社内部の取引であり、会社内部の債権・債務の勘定として、本店では「**支店**」勘定、支店では「**本店**」勘定で処理します。また、支店が２つ以上ある場合にはそれぞれの支店名を付けた支店勘定を用います（例「北海道支店」勘定、「沖縄支店」勘定）。

「本店」勘定・「支店」勘定は対応する一対の勘定ですので「**照合勘定**（しょうごうかんじょう）」といいます。「本店」勘定と「支店」勘定は会社内部の債権・債務を表しますので、貸借反対に発生し、その残高は貸借反対側で必ず一致します。



（２）本支店間取引の具体例

本支店間取引においては、先に現金や売掛金等の勘定について借方か貸方かを決定し、その相手勘定科目を照合勘定である「本店」勘定や「支店」勘定で処理するという手順で仕訳を行って下さい。なお、本支店間の商品売買取引は後で学習します。

例題　本店は支店に現金10,000円を送付した。

・本店

本店の現金が減少したので、貸方は「現金」勘定（資産）とし、相手勘定科目の借方は「支店」勘定で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
支　　　店	**10,000**	**現　　　金**	**10,000**

・支店

支店の現金が増加したので、借方は「現金」勘定（資産）とし、相手勘定科目の貸方は「本店」勘定で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　金	**10,000**	**本　　　店**	**10,000**

例題　本店が支店の売掛金800円を現金で回収した。

・本店

本店の現金が増加したので、借方は「現金」勘定（資産）とし、相手勘定科目の貸方は「支店」勘定で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　金	**800**	**支　　　店**	**800**

・支店

支店の売掛金が減少したので、貸方は「売掛金」勘定（資産）とし、相手勘定科目の借方は「本店」勘定で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
本　　　店	**800**	**売　掛　金**	**800**

例題　支店が本店の買掛金500円を現金で支払った。

・本店

　本店の買掛金が減少したので、借方は「買掛金」勘定（負債）とし、相手勘定科目の貸方は「支店」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**500**	**支店**	**500**

・支店

　支店の現金が減少したので、貸方は「現金」勘定（資産）とし、相手勘定科目の借方は「本店」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
本店	**500**	**現金**	**500**

例題　本店は支店の通信費300円を現金で支払った。

・本店

　本店の現金が減少したので、貸方は「現金」勘定（資産）とし、相手勘定科目の借方は「支店」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支店	**300**	**現金**	**300**

・支店

　支店の通信費が増加したので、借方は「通信費」勘定（販売費及び一般管理費）とし、相手勘定科目の貸方は「本店」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
通信費	**300**	**本店**	**300**

例題　**支店は本店が受け取るべき手数料400円を現金で受け取った。**

・本店

　本店の受取手数料が増加したので、貸方は「受取手数料」勘定（営業外収益）とし、相手勘定科目の借方は「支店」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支　　店	**400**	**受取手数料**	**400**

・支店

　支店の現金が増加したので、借方は「現金」勘定（資産）とし、相手勘定科目の貸方は「本店」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現　　金	**400**	**本　　店**	**400**

例題　**本店の通信費2,000円のうち700円は支店負担分であるので、支店に負担させる。**

・本店

　通信費支払時に以下の仕訳を行っています。

借方科目	金額	貸方科目	金額
通信費	2,000	現　　金	2,000

　通信費の一部を支店に負担させることによって、本店の通信費が減少しますので、貸方は「通信費」勘定（販売費及び一般管理費）とし、相手勘定科目の借方は「支店」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支　　店	**700**	**通信費**	**700**

　支店に負担させる仕訳を行った結果、本店で計上する通信費1,300円は本店負担分として正しい金額となります。

・支店

　支店の通信費が増加したので、借方は「通信費」勘定（販売費及び一般管理費）とし、相手勘定科目の貸方は「本店」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
通信費	**700**	**本　　店**	**700**

上記の取引に関する「本店」勘定と「支店」勘定の記入は以下となります。

＜本店の帳簿＞

支　店

10,000	800
300	500
400	
700	

＜支店の帳簿＞

本　店

800	10,000
500	300
	400
	700

残高10,100 ←→ 残高10,100

一致

本支店間の商品売買取引

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　２つの処理方法を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「本店」勘定、「支店」勘定

「仕入」勘定（費用）

「支店へ売上」勘定（収益)、「本店より仕入」勘定（費用）

「本店へ売上」勘定（収益)、「支店より仕入」勘定（費用）

本店が仕入れた商品を支店に送付したり、反対に、支店が仕入れた商品を本店に送付する場合があります。この本支店間の商品売買取引について、**仕入勘定で処理する方法**と、**照合勘定で処理する方法**があります。

（１）仕入勘定で処理する方法

本店が仕入れた商品を支店に送付した場合、実質的に支店が商品を仕入れたことと変わりませんので、本店では外部から仕入れた時に計上した仕入を減額し、支店では仕入を計上します。支店が仕入れた商品を本店に送付した場合も同様に処理します。

例題　以下の本支店間取引について仕訳を行いなさい。なお、本支店間の商品売買取引については仕入勘定で処理すること。

①　本店は商品1,000円を掛で仕入れ、支店へ1,000円で送付した。

②　支店は商品700円を掛で仕入れ、本店へ700円で送付した。

①　本店から支店への商品の送付

・本店

支店へ商品を送付した時に、貸方は「仕入」勘定（費用）の減額処理を行い、相手勘定科目の借方は「支店」勘定で処理します。この結果、本店では仕入がなかったこととなります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**1,000**	**買掛金**	**1,000**
支店	**1,000**	**仕入**	**1,000**

・支店

本店から商品の送付を受けた時に、借方は「仕入」勘定（費用）で処理し、相手勘定科目の貸方は「本店」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**1,000**	**本店**	**1,000**

②　支店から本店への商品の送付

・本店

　支店から商品の送付を受けた時に、借方は「仕入」勘定（費用）で処理し、相手勘定科目の貸方は「支店」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕　入	**700**	**支　店**	**700**

・支店

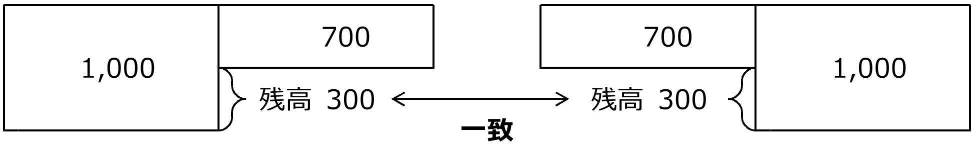
　本店へ商品を送付した時に、貸方は「仕入」勘定（費用）の減額処理を行い、相手勘定科目の借方は「本店」勘定で処理します。この結果、支店では仕入がなかったこととなります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕　入	**700**	**買 掛 金**	**700**
本　店	**700**	**仕　入**	**700**

　上記の取引に関する照合勘定の記入は以下となります。

＜本店の帳簿＞　　＜支店の帳簿＞

支　店　　**本　店**



（２）照合勘定で処理する方法

本支店間の商品売買取引は会社の内部取引なので、外部との商品売買取引と区別するために、本店では「**支店へ売上（支店売上）**」勘定（収益）・「**支店より仕入（支店仕入）**」勘定（費用）、支店では「**本店より仕入（本店仕入）**」勘定（費用）・「**本店へ売上（本店売上）**」勘定（収益）で処理します。これらの勘定も**照合勘定**ですので、貸借反対に発生し、その残高は貸借反対側で必ず一致します。

例題　**以下の本支店間取引について仕訳を行いなさい。なお、本支店間の商品売買取引について照合勘定を用いている。**

①　本店は商品1,000円を掛で仕入れ、支店へ1,000円で送付した。

②　支店は商品700円を掛で仕入れ、本店へ700円で送付した。

①　本店から支店への商品の送付

・本店

支店へ商品を送付したので、貸方は「支店へ売上」勘定（収益）とし、相手勘定科目の借方は「支店」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**1,000**	**買掛金**	**1,000**
支店	**1,000**	**支店へ売上**	**1,000**

・支店

本店から商品の送付を受けたので、借方は「本店より仕入」勘定（費用）とし、相手勘定科目の貸方は「本店」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
本店より仕入	**1,000**	**本店**	**1,000**

② 支店から本店への商品の送付

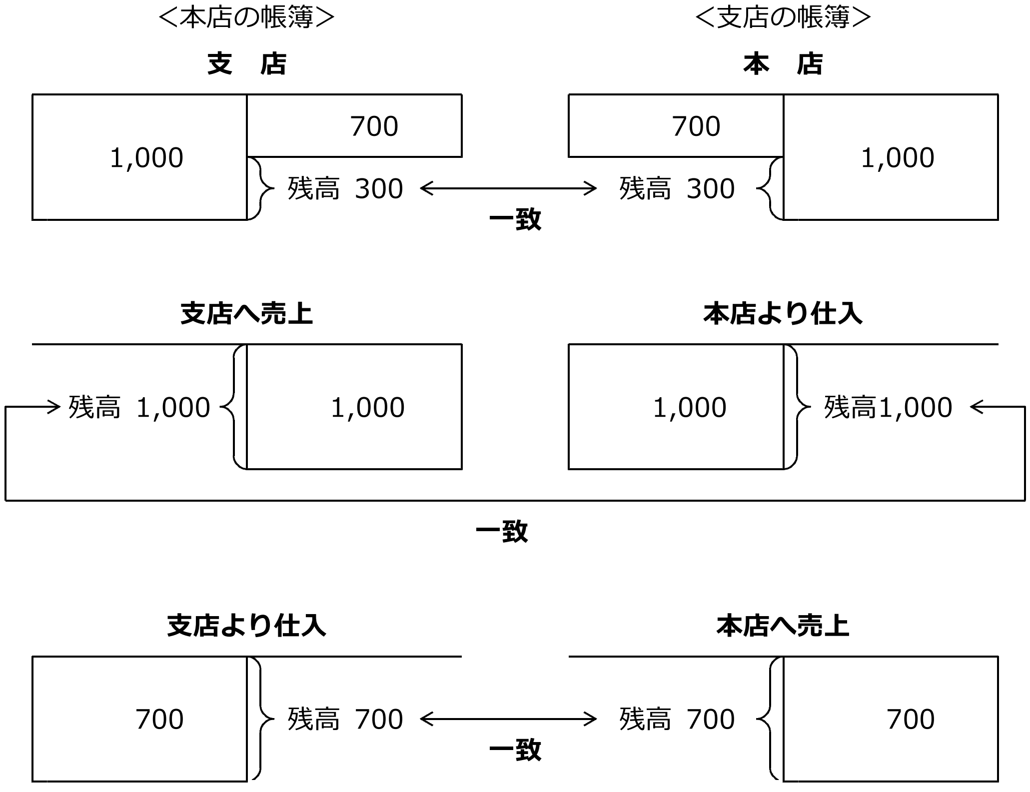
・本店

支店から商品の送付を受けたので、借方は「支店より仕入」勘定（費用）とし、相手勘定科目の貸方は「支店」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支店より仕入	**700**	**支店**	**700**

・支店

本店へ商品を送付したので、貸方は「本店へ売上」勘定（収益）とし、相手勘定科目の借方は「本店」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**700**	**買掛金**	**700**
本店	**700**	**本店へ売上**	**700**

上記の取引に関する照合勘定の記入は以下となります。